

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

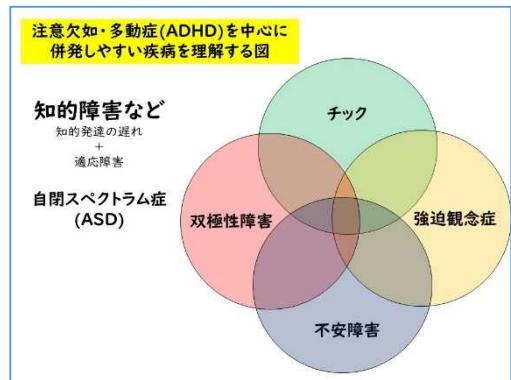
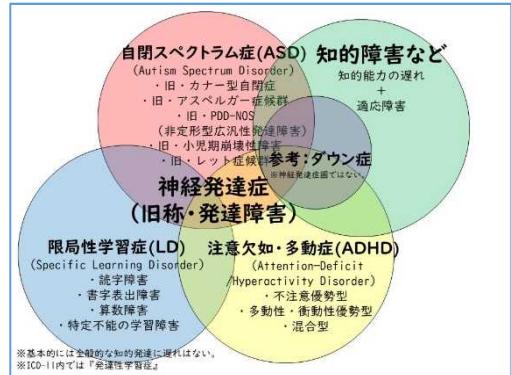
実は多い!!自閉スペクトラム症と ADHD の併存症状の子

¶ 認知的には結構高めなのに、離席がとても多くて、「席に座ってね」といつも言われ、でも、またふらっと離席を繰り替えしてしまう子、授業中に突然「あっ、救急車鳴ってるねー」と言い出してしまう子、制止や注意が入ると、まなざしが「グッ！」と陥しくなって「〇〇じゃねえってんだろ！」と言葉遣いが荒くなったり、頭突きや引っ掻きが出たりしてしまう子、興味がある物があると「ダメ！」と言われても、先生に「あっかんべー」と満面の笑顔をぶつけて走って行ってしまう子、すべきことの優先順位を付けられず、遊びや手紙書き落書きなどをなかなか切り上げられない子（実行機能障害）、知的発達が緩やかで且つ、いつも離席が激しい子…。何となく「他の子に比べて扱いづらいな…」という子、いませんか？自閉スペクトラム症（以下、ASD とする）が原因？と解釈されていることが多いのですが、実は ADHD と ASD を併発している場合が結構あって、ASD の理解に加えて、ADHD の症状として理解を進めると、その子の障害特性に応じた支援や理解につながり易くなります（支援方略は物理的構造化や行動療法、薬物療法などが用いられますが、ポジティブ・フィードバックが一つの有効策としてあげられる場合が多いです ⇒ 参考文献参照）。

¶ また、ADHD は「注意欠如気味で多動が伴うやつでしょ」という単純なものでは決して無く、二次障害的な「合併症（反抗性障害、躁うつ、不安障害、強迫観念症、チックなど）」を伴いやすい結構厄介な障害もあります。環境支援の伴わない制止や注意が重なると、合併症が出やすくなるので、こちらについても理解を進めておくと「ADHD の二次障害では？」と気づくことができます。反抗症状や不安症状が二次障害に入っているのは気に留めておくと良いと思われます。

¶ ADHD は ASD と同じく、幾つかの遺伝子が複合的に発現して症状が出る障害で、家族性(20-54%)・兄弟性(25-35%)です。なので「お父さんの言葉遣いが荒くって…」とか、「全く同じレベルで、子どもとお父さんがケンカを繰り返していて、お父さんとの関係が悪いんです…」という場合には、ご家族内にも同様の生きづらさをもつ人がいる場合もあると推測することができます。また、お母さんに二次的なカサンドラ症候群（配偶者の二次障害）が見られることもあります。ちなみに ADHD の罹患率は、現在ではほぼ男：女=1：1だとされています。

¶ 私たちが直接関与することはできませんが、ADHD に関して、進展がめざましいのは薬物療法の分野です。「コンサーナ」や「ストラテラ」は何となく聞いたことがあると思うのですが、最近では「インチュニア」という神経伝達補助剤も処方されるようになっています。ADHD 自体は脳の器質的な障害なので治ることはありませんが、学齢期の段階でお薬を使い、合併症状を予防しながら学習と自尊心を積み重ねることで、予後が良くなり、服薬を止められる場合が多いようです。



ADHDの症状チェックリスト	
注意欠陥	1 いたんはじめたことを最後までやりきれない 2 しばしば人の言うことを聞いていないように見える 3 すぐに気が散る 4 集中力が必要な宿題などをやり遂げることができない 5 あそんでいてすぐには飽きてしまう 6 よく無意図に行動する
活動性	7 ひとつのことに熱中したかと思うとすぐにはほかのこと気に移る 8 動きを制御立てて行えない 9 なにをするにもつきっきりの指導が必要 10 ゲームやあそびの時間をやめてない 11 走り回ったりと高いところにすぐに飛びだりする 12 静かに座れない 13 いつもモーターで動かされているかのように動き回る
友人関係	14 すぐにぶつかりんかをする 15 他の子をうわざっている 16 他人のじやまをよくする 17 他人に命めはかける 18 ほかの子どもをよくいじめる 19 他の子をモロに攻撃しない 20 すぐにかしきや起きこす

(+) または(+)とどちらか(+)しばしば(++)いつもそれだけに、0、1、2、3点を切る。何点以上なら ADHD であるというよりではないが、得点が高いほどその可能性は高くなる。治療(薬物療法、行動療法)の判断にも使用できる。

図3：ADHD 症状チェックリスト

(図4の書籍より抜粋)

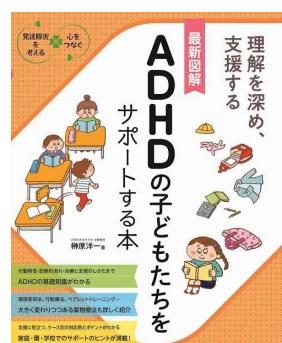


図4：参考文献これ、オススメです。